

集落排水で新システム開発

島根・八雲村の
小松電機産業



制御機器製造の小松電機産業（本社・島根県八雲郡八雲村、小松昭夫社長）は二十日、集落排水施設の遠方監視と自動制御の機能を一体化したシステムを開発したと発表した。

システムの名称は「パッケージ排水神」。複数の場所から同時に集落排水を管理・監視したうえ、自動制御で流入水の窒素やリンを除去し高度処理するシステム「N・P・Wやくも水神」をソ

施設遠方監視と自動 制御機能を一体化

小松電機産業が開発した集落排水の遠方監視・自動制御システム

フト面でさらに発展させた。コンピュータの技術革新の成果を駆使し、安全性と操作の簡略化とともに、機器の規格化と標準化を図ったという。

この遠方監視・自動制御機能付きの装置は、十五カ所の処理場と四百五十カ所の中継ポンプを管理することができ、窒素やリンなどを高度に処理し、処理水を農業用水にまで再利用できる施設に、計測・自動制御・監視の機器が一体となった構成となっており、公衆電話回線に接続するだけで機能する。

制御盤のスイッチやメーターなどを一掃し、コンピュータを活用した表示画面とタッチパネルだけで操作。作業の簡素化と安全性を追及した。システムの規格化と標準化は「生産ラインを確立することでコストダウンにつながる」としている。

価格は現段階で、人口一千八百人程度の集落で七千六百万円。今後、富栄養化など水質悪化が問題とされる宍道湖・中海など閉鎖水域に近い地域を中心に普及させたい考え。すでに同県大原郡木次町などへ納入を始めている。